

平成 30 年度 メディカルサポート部バスケットボール競技班 活動報告

1. メディカルサポート活動

1) 実施大会

下記 4 大会の 3 回戦以上となる全試合に参加した。本年度は選抜大会の日程が昨年度より 1 日増加したため、メディカルサポートも 4 日間の活動に増加した。

第 72 回関東高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（県総体）	: 2 日間 32 試合
第 71 回全国高等学校総合体育大会県予選会（インターハイ）	: 3 日間 30 試合
第 49 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会（選抜大会）	: 4 日間 46 試合
第 29 回関東高等学校バスケットボール新人大会県予選会（新人大会）	: 4 日間 64 試合

2) 活動内容

（1）救護活動

試合中の救護活動として、スタッフがコート脇にて待機し、試合中の傷害に対する応急処置などを行った。また、円滑に救護活動を実施する為の準備として、各会場にて AED や担架の保管場所を確認し、実際に担架を用いて搬送ルートのシミュレーションを行った。

（2）コンディショニング

会場の一角にブースを設営し、試合前後の選手・審判からのテーピング等のコンディショニング依頼に対応した。

3) 参加スタッフ数（表 1）

メインスタッフは延べ 34 名（実数 10 名）、アシスタントスタッフは延べ 48 名（実数 19 名）であった。

4) 対応件数（表 1）

選手の対応件数は男子 45 件、女子 13 件、計 58 件であった。また、審判への対応件数は計 1 件であった。

5) 対応回数（表 1）

選手の対応回数は計 149 回であった。また、審判への対応回数は計 1 回であった。

表1 メディカルサポート概要（選手のみ）

	日数 (日)	試合数 (試合)	スタッフ数（名） メイン / アシスタント	対応件数 (件)	対応回数 (回)
県総体	2	32	6 / 7	13	34
インターハイ	3	30	8 / 14	9	25
選抜大会	4	46	8 / 13	17	44
新人大会	4	60	12 / 14	19	46
計	12	168	34 / 48	58	149

6) 傷害内容と傷害部位（選手のみ）（表2）

実施大会では、筋・腱損傷、関節構成体の損傷がそれぞれ12件、打撲が11件、筋痙攣が10件と多くみられた。特に多いものとしては、足関節の関節構成体損傷が11件、下腿部の筋痙攣が7件であった。また、本年度は脳震盪疑いに対する試合中の対応が3件存在した。

表2 実施大会の傷害部位別件数（選手のみ）

	頭部	顔面	腰部	肩関節	肘関節	前腕部	手関節	手部	手指	大腿部	膝関節	下腿部	足関節	計
脳震盪疑い	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
打撲	1	-	2	1	1	-	-	-	1	3	1	1	-	11
出血	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	3
骨折	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
脱臼	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
筋痙攣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	10
筋・腱損傷	-	-	4	-	-	1	1	-	-	1	2	3	-	12
(A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	12
判断不可	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	3
その他	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
計	4	1	7	2	2	1	1	1	4	7	6	11	11	58

(A)：関節構成体損傷

7). メディカルサポートの対応内容（選手のみ）（表3）

県内大会における対応内容の内訳は、テーピング43回、ストレッチ13回、アイシング38回、止血処置3回、徒手療法3回、傷害確認・対処方法の指導45回、救急搬送2回、その他2回であった。

表3 メディカルサポートの対応内容（選手のみ）

	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手療法	(A)	救急搬送	その他	計
県総体	4	6	8	2	-	12	-	2	34
インターハイ	7	3	7	-	-	7	1	-	25
選抜大会	15	1	11	-	1	16	-	-	44
新人大会	17	3	12	1	2	10	1	-	46
計（回）	43	13	38	3	3	45	2	2	149

(A)：傷害確認・対処方法の指導

8) スタッフの内訳

本年度のバスケットボールメディカルサポート登録人数は計 36 名であった。その内大会へのメディカルサポートに参加した人数はメインが 12 名、アシスタントが 24 名であった。本年度中にアシスタントよりメインに昇格した人数は 2 名であり、バスケメディカルへの参加 3 年目であった。

また、参加スタッフ中、理学療法士免許以外の資格も同時に有する者は 4 名であった（群馬県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー：4 名）。

2. 教育・指導体制

1) メディカルサポートにおいて

前年度より継続し、本年度も会場にて空き時間を利用して、メインスタッフからアシスタントに向けて対応に関する指導を実施した。内容としては、脳震盪疑いの選手への対応フローチャート表の確認や筋痙攣や打撲など対応の多かった症例を用いて病態や対応の注意点などの指導を行った。また、会場にて担架を使用して実際に緊急搬送時の動線確認や AED の保管場所を確認する等、救護活動を円滑に行う準備を行い、新人大会では試験的にメディカルサポートスタッフ内で **Emergency Action Plan** を作成した。これらはアシスタントに対しては救護活動やコンディショニングに関するシミュレーションを通じて準備してもらうことを目的とし、メインスタッフに対しては指導を通じて活動内容について再確認を促すことや経験の少ないアシスタントの育成に積極的に関与してもらうことを目的とした。

2) 定期勉強会

前年度より継続し、各大会前に定期勉強会を計 4 回開催した。内容としてテーピングの実技練習や、脳震盪や骨折への対応、担架を用いた救急搬送法などスポーツ現場に即した実践的な知識や対応について学んでもらうことを目的とした。その他にも、多数の PT が普段臨床で経験し難いアスレティックリハビリテーションについて学び、体験してもらうことで、受傷⇒メディカルリハビリテーション⇒アスレティックリハビリテーション⇒復帰といった段階的な競技復帰までの流れを把握してもらい、選手対応へ活かしてもらうことや、またパラスポーツである車椅子バスケットボールチームでのトレーナー活動や **Emergency Action Plan** の紹介といった、新しい経験や知見を紹介することも目的とした。

(1) 県総体前勉強会

【日時】平成 30 年 5 月 8 日（火）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階 運動学実習室

【内容】平成 29 年度バスケメディカル年間報告、バスケメディカルサポート概要、
足関節のテーピング（実技）、懇親会

【受講料】1000 円

【参加人数】計 19 名（※PT：14 名で、その内県総体への参加者 5 名。学生：5 名）

【講師】奥井、江原、小林、深津、金城

（２）インターハイ前勉強会

【日時】平成30年6月13日（水）19時30分～21時30分

【会場】高崎健康福祉大学3号館1階 運動学実習室

【内容】総体予選のメディカルサポート報告、サポート現場での救護について（出血や骨折等についての講義、三角巾や担架を用いた実技）、懇親会

【受講料】200円

【参加人数】計20名（※PT：15名で、その内インターハイへの参加者9名。学生：5名）

【講師】奥井、江原、小林、深津、金城

（３）ウインターカップ前勉強会

【日時】平成30年10月16日（火）19時30分～21時30分

【会場】高崎健康福祉大学3号館1階 運動学実習室

【内容】車椅子バスケットでのトレーナー活動について（講義）、脳震盪について（講義）、キネシオロジーテープ概論（講義、実技）

【受講料】500円

【参加人数】18名（※PT：13名で、その内ウインターカップへの参加者7名。学生：5名）

【講師】梅山（車椅子バスケットに関する講義担当）、江原、小林、深津、本間、金城、

（４）新人大会前勉強会

【日時】平成31年1月8日（火）19時30分～21時30分

【会場】高崎健康福祉大学3号館1階 運動学実習室

【内容】Emergency Action Plan（緊急時対応計画）について、アスレティックリハビリテーション実践（ACL再建術後の選手に対してレイアップシュートに着目して）、懇親会

【受講料】200円

【参加人数】19名（※PT：14名で、その内新人大会への参加者7名。学生：5名）

【講師】奥井、江原、小林、深津、金城

3. まとめ

平成30年度の群馬県高校バスケットボールメディカルサポートは、昨年度より継続して各大会での3・4回戦以降のサポート活動を実施した。本年度も3・4回戦の時点ではトレーナーが帯同していないチームが多く、またベスト4以上のチームでもトレーナーが帯同していないチームが男女ともに存在した。そのため、バスケットメディカルサポートとしては試合前の選手のコンディショニングや、試合中に発生した傷害への対応を実施するために、来年度も継続して3・4回戦以降の試合で可能な限りサポート活動を実施していきたい。

昨年度から継続した取り組みとして、脳震盪の疑いがある場合はバスケットボール班で作成したフローチャート表や対応シート表を用いて対応した点が挙げられる。本年度は3件の脳震盪疑いの対応があり、実際にこれらを使用し対応を行った。また、昨年度より継続して実施しているAEDなどの保管場所

確認や搬送ルートの確認作業、対応数の多い症例に関するアシスタントへの指導に関して継続していきたい。さらには来年度の展望として、新人大会で試験的に作成した **Emergency Action Plan** に関して、脳震盪など重篤な傷害発生時に円滑に救護活動が実施できるよう、大会運営本部や審判部、施設管理の方々とも協議して作成できるように活動していきたい。

本年度も定期勉強会を各大会前に全 4 回開催した。勉強会では、対応数の多い足関節へのテーピング実技練習の他に、脳震盪や出血といった試合中に起こりうる傷害についての講義や、上肢の骨折に対する三角巾の使用法、担架などを用いた救急搬送法の実技も実施した。また新人大会前ではアスレティックリハビリテーションの実践として、**ACL** 再建術後の選手を仮定しレイアップシュート動作の再獲得において必要な評価・アスリハプログラムについて考えた。各大会前にこれらの内容の勉強会を行ったのは、サポート参加者が勉強会を通じてメディカルサポート活動の準備を行うという目的の他、知識や技術に関して常日頃から継続的に準備を行う必要性を感じてもらいたいという意図が存在した。各勉強会にて直後の大会スタッフの参加がみられたが、特に第 2 ～ 4 回目の勉強会では参加者の約半数が大会スタッフとしても参加しており、一定の成果は挙げられたのではないかと考える。来年度も大会前には定期勉強会を開催するとともに、本年度第 3 回定期勉強会での車椅子バスケのトレーナー活動報告のような新しいフィールドでの経験あるいは新しい医学的知見の紹介、現場で起こり得る傷害に対する知識・対処方法などについてスタッフ間で情報・技術の共有を図りたいと考える。

来年度も今年度同様、県内大会における 3 回戦以降のサポート活動を実施するとともに、各大会前に定期勉強会を開催し、メディカルサポートの更なる充実を図っていく必要があると考える。また、今後も脳震盪や骨折など試合中に生じうる外傷に関して定期勉強会やサポート現場などを利用し、スタッフに対して継続して知識や対応方法の周知を図りたいと考える。更には、**Emergency Action Plan** の作成を通じて、迅速な救護活動を実施できる環境作りにも関与していきたい。

群馬スポーツリハビリテーション研究会
メディカルサポート部バスケットボール競技委員会
奥井、江原、小林、深津、本間、金城